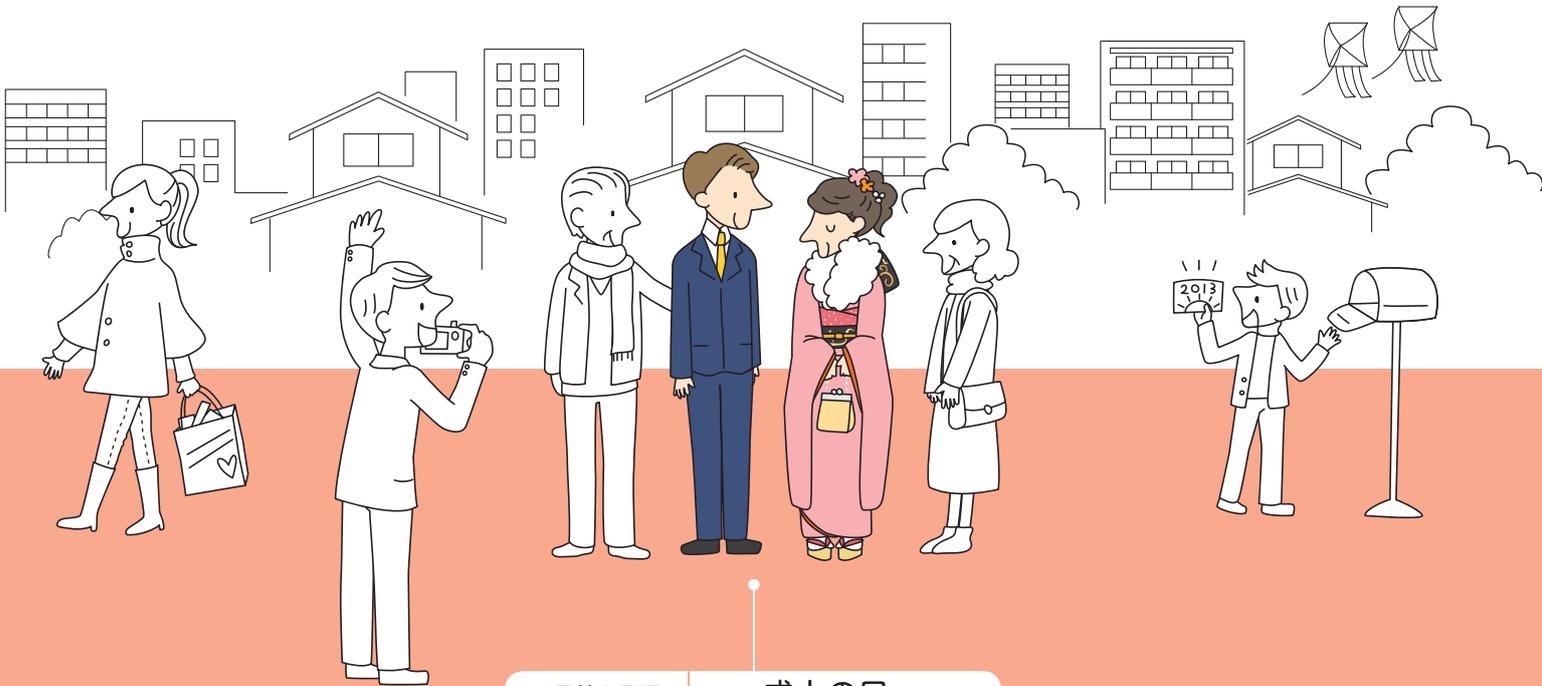


きずな

2013年
(平成25年)

1



1月第2月曜

成人の日

「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いあげます」(祝日法より)ことを趣旨として、1948(昭和23)年に制定。従来は1月15日でしたが、2000(平成12)年からハッピーマンデー制度の導入に伴い、1月第2月曜になりました。

特集テーマ 家庭・地域と人権

大切にしたい つながり

- 2 巻頭言 ふるさと意識を育てよう
井戸敏三(兵庫県知事)
- 3 帰省(平成24年度のじぎく文芸賞(詩部門)優秀賞受賞作品)
蔭谷千春さん
- 4 少年団で知った地域のつながり
谷五郎さん(ラジオパーソナリティー)
- 5 高齢者を「孤立」から救う
幸せの黄色いハンカチ運動
養父市堀畑区福祉連絡会
- 6 県内の避難者向けに
就業支援相談窓口を開設
NPO法人シンフォニー(尼崎市)
- 7 自分は親を選んで生まれてきた
映画「うまれる」を作った理由
豪田トモさん(映画監督)
- 8 情報ぶらざ



ふるさとと意識を育てよう

兵庫県知事

(公益財団法人兵庫県人権啓発協会会長)

井戸敏三



新年あけましておめでとうございます。

東日本大震災の発生からまもなく2年を迎えようとしています。この間、兵庫県は阪神・

淡路大震災の経験と教訓を生かしながら、被災地の支援に率先して取り組んできました。

復旧復興へのスタートが切られ、新たなステージを迎えた今は、NPO等の協力も得ながら、

復興まちづくり、コミュニティの再生、こころのケアを中心に支援を展開しています。

また、多くの県民、団体、企業の皆さんが、自分たちに何ができるかを考え、行動してきました。今も、専門家の派遣、NPOの協力、

芸術文化活動、物産展、県内避難者との交流など、多岐にわたる支援活動が続けられています。

こうした他者への思いやりや責任感こそ、私たちが本来持っている力です。しかし、人

間関係の希薄化、行きすぎた個人主義などを

背景に、その本来の力が弱まっている気がしてなりません。いじめや児童虐待、地域力の

低下、格差の拡大なども、その結果として現れている問題ではないでしょうか。だれもが

ともに生きることの大切さと喜びを感じ、それぞれの役割と責任を果たしていく。今こそ、

そうした地域、社会を築いていかなければなりません。

そのためにも、私はふるさと意識を育てることが大切だと考えています。ふるさとは何

も農山村に限りません。生まれ育った地であり、生活や文化、伝統が受け継がれてきたところ

です。もちろん都市であってもふるさとです。愛すべきふるさとを持つことは、地域に暮らす人々を思いやる優しい心、地域の中で責

任ある役割を果たそうとする態度を養います。

また、困難に直面したときに自分を奮い立たせる心の土台となります。そして、たとえふるさとを離れても、いつかは帰りたいという

願いがUターンなどを促し、地域の活力につながっていくはず

です。だからこそ、次代を担う子どもたちには、ふるさとの良さを知り、思い出をしっかりと

刻みつけてもらいたいです。環境学習や自然教室、トライやる・ウィークなど、県が力を注いでいる体験教育はその重要な役割を果たす取り組みだと考えています。

21世紀の兵庫づくりの主役は、県民一人ひとりと。そして、その原動力こそ兵庫への思い

です。ふるさと意識を育みながら、ともに力を合わせ「創造と共生の舞台・兵庫」の実現

をめざしていこうではありませんか。

特集

家庭・地域と人権

近年、少子高齢化をはじめ、核家族化、ライフスタイルの多様化、雇用形態の変化などさまざまな要因が重なり、社会から孤立する人が増え、孤立死や虐待などが問題になっています。私たち一人ひとりが、人と人、家庭や地域の絆を再確認するとともに、社会の一員として互いの人権を尊重し合い、つながりを深めることの大切さを考えてみましょう。

帰省

かげたにちはる
蔭谷千春
(福崎町)

久しぶりの帰省
炬燵こたつの上には
カセットコンロと大きな土鍋
お鍋を中心に座ると
それぞれの顔がよく見える
お母さんが
鍋つかみで蓋ふたを開けると
白い湯気が
天井に昇っていく
お父さんの眼鏡が
曇ったのを見て
妹が
くすくす笑う
お父さんも
笑い出す
お母さんは
いつもと同じ
優しい眼差し
わたしは
ほんの少しだけ
泣けてきた
幸せすぎて
泣けてきた
わたしは
「熱くて舌を焼いたんだよ。」
と、言って
笑ってごまかす
みんなは
少し微笑んで
何も聞かなかった
今日のお鍋は
いつもより
ずっと
おいしい



(平成24年度のじぎく文芸賞(詩部門)優秀賞受賞作品)

蔭谷千春さんの
コメント

この詩は、家族が集まって食卓を囲むことが、何気ないようでいて、本当はとても温かくて、幸せな時間なのだという思いから書きました。

少年団で知った地域のつながり

谷（たに）五郎（ごろう）さん（ラジオパーソナリティー）

はじめは突然に

「お父さん、引越ししよう！」突然、イメルダ（僕の妻です。靴好きで、イメルダはニックネームです）が僕に言ったのです。引越してきて10年ほど、やっとこの地域に馴染み始めたころでした。理由を聞くと、「少年団（いわゆる子ども会）の役員のクジで、会長を引いてしまった。来年、会長にならんといかんねん。無理やわ。断られへんから、引越ししよう」。

僕の住んでいる地域には、中学生以下の子どもたちで構成する少年団があります。その役員は、親たちがクジ引きで決めるのです。役員の名前は男性ですが、実質仕切るのは女性陣なのです。行事が近づくと毎週のように会議が開かれ、結構大変です。イメルダは目に涙をためて訴えていました。結局、イメルダは、クジに当たっ

ていない友人が手伝ってくれることになり、渋々受けることになりました。

ところが、です。1年間、副会長を務めた後、2年目は会長に。このころには、イメルダ様（妻への尊敬と、こうした機会を与えてくれた感謝の気持ちを含めて敬称）は立派にリーダーシップを發揮していました。僕は彼女の指示に従うだけ。そして、僕も地域のお父さんたちと初めて話をするようになりました。

経験できたからわかったこと

行事に顔を出すと、いつも来ている常連の子どもたちがいます。向こうから声をかけてくれることもあります。かわいいものです。やんちゃなことをしていると、叱ることもできます。こうしたことも、普段、顔も知らない子どもたちには、なかなか難しいことだな

と感じました。

そして、何より楽

しかったのは、行事の後の打ち上げや、個人的に開くようになった飲み会。そして忘年会。これは、役員をやっていないければ絶対に考えられないことでした。

副会長と会長、2年間にわたって務めたことで、地域に対する愛着がグッと深まりました。本当にやってよかったと思っています。「えっ？ それは実質仕切っていたイメルダが言うこと？」。そうですね、その通りです。

そのイメルダ様はこう言っています。「役員は、できるだけ多くの人が経験するのいいと思うの。ひとりで長くするよりもね。そんな人が増えることで、地域を理解する人が広がっていくと思うわ」と。

そして、僕は、その経験の楽しさを、経験者がもつともつとアピールするべきだと思うのです。

地域に顔見知りが増え、子どもたちとナメの関係（親子じやない、知り合いの関係）ができることで、更に見通しのいい地域になります。そんな、ちよつとゆるやかな関係こそが、今求められているように思います。

プロフィール

高砂市出身。1976（昭和51）年、神戸大学農学部卒業。高砂市農協、現JA兵庫南に就職。1991（平成3）年からラジオ関西のパーソナリティーに。ラジオ関西（谷五郎のこころにきくラジオ）月曜、木曜（13時～16時）をはじめ、自らの実体験に基づいた子育てや家族、人生などをテーマにした講演やフォーラムでも活躍中。好きな言葉は「夢」。著書にエッセー「谷五郎の笑（show）タイム」がある。





高齢者を「孤立」から救う幸せの黄色いハンカチ運動
養父市堀畑区福祉連絡会

朝は住民全員で旗を確認

養父市堀畑地区では2010（平成22）年から、全住民で高齢者を見守る「幸せの黄色いハンカチ運動」を行っています。毎朝、黄色い旗を軒先に出し、出ていない家があれば区役員などへ通報して安否を確認するという仕組みです。

同地区は約100世帯、高齢化率は4割を超えています。黄色いハンカチ運動が始まるきっかけになったのは、一人暮らしの高齢者宅で、体調を崩して飲まず食わずの状態だった人や、けがで動けなくなっていた人が数日間発見されなかったことが相次いで起きたからでした。「高齢者宅だけが旗を出す」と

黄色い旗は住民ボランティアが作りました



空き巣や悪徳業者の標的になりかねませんので、全世帯に出してもらおうようお願いしました」と語るのは発案者である堀畑区福祉連絡会の前会長、下村英規さん。黄色いハンカチ運動によって住民の見守り意識は向上しました。ある日、認知症の女性がいつも持ち歩いている赤いバケツががけの上で見つかり、その女性はがけの下で動けなくなっていたところを救出されました。「毎朝、犬と散歩に出



下村さん（右）と足立さん。下村さんは福祉委員としても活躍中です

掛ける前に必ず旗を出します」と住民の足立道子さん。「子どもたちと離れて暮らしていますが、旗のおかげで何かあっても安心できます」と笑顔で話します。下村さんは「『遠くの親戚より近くの他人』という言葉がありますが、地区を挙げて空き家の回りをチェックすることが防犯につながったり、遠くからでも子どもが遊んでいる様子を見守ることが子育て支援につながったりします。住民同士のつながりが実感できるまちづくりをめざしたいですね」と抱負を語ります。

じんけん情報

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを推進中

近年、一人暮らし世帯の増加や雇用形態の変化、価値観・ライフスタイルの変化などから、家族や地域、会社における人と人との絆が失われる「無縁社会」と呼ばれる状況が進み、孤立死、虐待などの問題が起こるようになりました。兵庫県では、県社会福祉協議会に事務局を置き、人と人がつながり、支え合える社会の実現に向けて、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを展開しています。

問「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会（県社会福祉協議会内）
TEL 078(242)4634 FAX 078(242)0297



キャンペーンに賛同する各種団体はキャンペーンホームページからロゴマークをダウンロードし、広報紙・誌等に無料で掲載できます。

県内の避難者向けに 就業支援相談窓口を開設

NPO法人シンフォニー（尼崎市）

仕事だけでなく託児も含めた
包括的なサポートが必要

「世帯主だけが被災地に残り、仕事をしているという
家族もいます。家族が離れ離れで暮らすつらさを思
うと、何とかしてあげたいですね」と二宮さん



兵庫県内に避難している東
日本大震災の被災者の数は約
430世帯・約1000人（昨
年8月、全国避難者情報シス
テム調べ）。NPO法人シン
フォニーは、県から補助を受
けて運営している「生きがい
しごとサポートセンター阪神
南」に昨年8月、避難者専用
の就業支援相談窓口を開設し
ました。

シンフォニーは阪神・淡路

大震災を機に仮設住宅のこ
ミュニティーづくりなどの活
動を始め、現在は主にNPO
法人や地域活動団体等の設立
の手助けなどを行う中間支援
に重点を置いています。

避難者専用の就業支援相談
窓口では、近畿で同様の支援
活動をしている団体とネット
ワークを形成し、避難者に対
して利用登録を呼び掛けてい
ます。そして、避難者の相談
に当たる際は必ずヒアリング
調査を実施しています。一口
に就労と言っても、一時的な
避難なのか、永住するのかに
よって提供する仕事などの情
報が変わってくるからです。

「避難者の中には、原発事故
に関連して母子だけで自主避
難している家庭も多いです。
そのため、仕事を見つかるだ
けでなく、子どもの保育所や
託児所も探さなければならな
いので、包括的な相談業務を

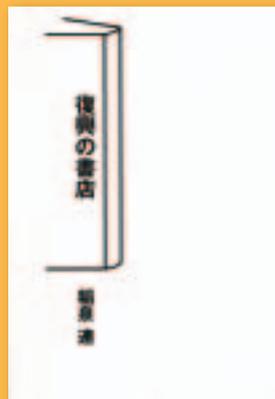
進める必要があります」と語
るのは、センター長を務める
二宮毅行さん。
震災のつめ跡は依然、大き
く残っています。避難者が一
日も早く落ち着いた生活を取
り戻せるよう支援活動は続き
ます。

NPO法人シンフォニー

尼崎市御園町5 尼崎土井ビルディング2階
TEL 06(6412)8025 FAX 06(6412)8444

- 生きがいしごとサポートセンター阪神南
TEL 06(6412)8448 FAX 06(6412)8444
✉ ikisapo@npos.cc
- 東日本大震災避難者専用窓口
TEL 06(6412)8026 (月曜～土曜 9:00～17:30)
✉ sigoto@npos.cc

「キッズライブラリー」
おすすめの一冊



復興の書店

稲泉 連著（小学館）

東日本大震災直後、仙台の一
部の書店がいち早く営業を再開
させた3月22日、開店前から長
蛇の列ができました。活字に飢
えているとしか言いようのない
人々の姿に、店員たちは、本は
ただの情報ではなく、生活必需
品であると実感するのです。

本書は、本の問題や被災地の
書店などを何度も取材した著者
が、「街の書店の復興」という視
点から、書店の存在意義、本と
人との関係に対する思いを語っ
ています。



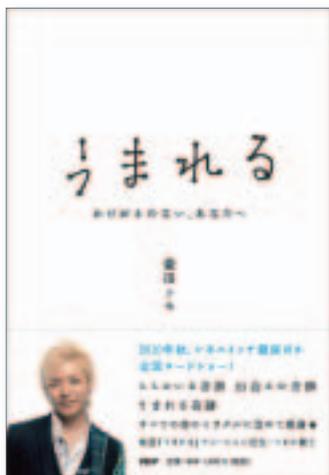
自分を選んで生まれてきた 映画「うまれる」を作った理由

豪田 トモさん (映画監督)

映画監督の豪田トモさんが製作した「うまれる」は、両親の不仲や虐待の経験から親になることに戸惑う夫婦、出産予定日に子どもを失った夫婦、お腹の中の子どもに障害の可能性を知った上で産む覚悟を決めた夫婦、子どもを望んだものの授からない人生を受け入れた夫婦と、4組の夫婦の姿を通して、命の尊さや家族の絆を描いたドキュメンタリー作品。2010(平成22)年の初上映以来、延べ20万人以上を動員しています。

「一人ひとりが祝福されて生まれてきたこと。その様子を
知ること、命の重さを実感
してほしいです」。豪田さんは
少年時代、両親が病弱の弟に
掛かりきりで寂しい思いをし
た経験から、「家族」や「愛情」
といったテーマにわだかまり
があったといいます。しかし、
5年前、ある産婦人科医の講
演会を撮影中、「胎内記憶を
持つ子どもは3歳くらいだと
30%もいる」「赤ちゃんたちは
雲の上で自分のお父さんとお
母さんを選んでくる」という
言葉を聞いたことで考え方が
一変。「自分の親は自分が選ん
だ。つまり、自分に責任があ
ると思うようになったことが、
この作品につながりました」
ファインダー越しに親が子
どもへ注ぐ愛情の深さを目の
当たりにし、「自分も待ち望ま
れて生まれてきた」「親も不安
と戸惑いの中でできる限りの
ことをしようとしてくれてい
たんだ」と、両親への感謝の

気持ちが湧いてきたそうで、
「自分も親を選んで生まれてき
たんだと思うようになりまし
た」と話します。
子どもたちが母胎にいた時
の様子「胎内記憶」を無邪気
に語るシーンでは温かい気持
ちになり、また、死産して悲
しみに暮れる母親に、担当医
が渡した天国の赤ちゃんから
の手紙は胸にこみ上げてくる
ものがあります。
「うまれる」は学校や児童養
護施設などでも上映されてい
ます。映画を観た子どもたち
からは「自分は親から愛情を
受けて育っているのだとあら
ためて実感しました」「これ
からは『ありがとう』と、実
際に言葉で感謝の気持ちを伝
えていきたいです」といった
声が寄せられています。
豪田さんは「命の尊さを感じ
る機会が少なくなっている今、
これからも家族や絆をテーマ
にした作品を撮り続けたいで
す」と抱負を語ります。



映画の未収録エピソードも満載の書籍「うまれる～かけがえない、あなたへ」も好評です。1,470円 (PHP研究所発行)



映画「うまれる」の内容や上映会についてはホームページを参照

うまれる

情報ぷらざ

平成24年度人権啓発DVD & ビデオ

「ほんとの空」が完成しました

「意識と人権」～あなたの思いをわたしのものに～

障害のある人や高齢者が受ける不利な扱い、同和問題に関する差別発言やインターネットでの書き込み、外国人への暴力や入居拒否、東日本大震災における風評被害など、誤った考えや思い込み、偏見などから、他者を排除したり差別したりする事案が依然として発生しています。私たちが抱くこれらの意識は、さまざまな人権課題に共通した、いわば人権の根幹に関わることです。

このドラマは、日常生活での自らの言動を振り返ることで、心の奥に潜む誤った考えや思い込みなどへの気づきとともに、他人のことを自分のこととして受け止められるようになり、日常の行動につなげてもらうことをめざして制作しました。DVDとVHSビデオの2種類があります。



字幕副音声付き／36分／活用ガイドあり

出演／白石美帆、鳥羽潤、湯浅美和子、浦上晟周、石川大樹 ほか

企画／兵庫県、(公財)兵庫県人権啓発協会 **企画協力**／兵庫県教育委員会 **製作**／東映(株)

●貸し出しについて (公財)兵庫県人権啓発協会研修部 TEL078(242)5355

●購入について 東映(株)関西営業推進室 TEL06(6345)9026

イベントガイド

<p>たつの市御津ブロック 人権を考える市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日時／1月19日(土)13:00～15:45 ※申し込み不要 ●場所／たつの市御津文化センター ※山陽電鉄「山陽網干」駅から神姫バス「新町」下車、徒歩約10分 ●内容／講演「天に一番近い大地チベットからのお話～字の読めない親への思い～」 バイマーヤンジンさん(声楽家) ●問い合わせ／たつの市教育委員会人権教育推進課 TEL 0791(64)3182
<p>西脇市人権教育協議会 市民じんけんセミナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日時／①1月19日(土)②27日(日)両日とも13:30～15:30 ※要申し込み ●場所／西脇市生涯学習まちづくりセンター3階ホール ※JR「西脇市」駅から神姫バス「西脇市役所前」すぐ、または中国自動車道「滝野社」ICから約20分 ●内容／①講演「ありのままのわたしを生きる」土肥いつきさん(京都府立高校教員) ②講演「人権と市民意識」阿久澤麻理子さん(大阪市立大学教員) ●問い合わせ／西脇市教育委員会人権教育室 TEL 0795(22)3111(代)
<p>朝来市人権講演会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日時／1月27日(日)14:00～ ※申し込み不要 ●場所／あさご・ささゆりホール ※JR「新井」駅から徒歩約10分または全但バスが朝来市コミュニティバス「朝来支所」すぐ ●演題・講師／「人がいてぬくもりがあって人がいて」レツゴー正児さん(漫才師) ●問い合わせ／朝来市人権推進課 TEL 079(672)6122
<p>拉致問題を考える 国民大集会 in 兵庫・神戸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日時／2月20日(水)13:30～17:00 ※要申し込み ●場所／県公館大会議室(神戸市中央区) ※神戸市営地下鉄「県庁前」駅すぐ ●内容／政府代表、兵庫県知事、神戸市長、拉致被害者の家族の訴え、映画「めぐみ」の上映 ●問い合わせ／県国際交流課 TEL078(362)3025、神戸市国際交流推進部 TEL078(322)5010

ハーフ タイム

「小さなことからコツコツと」とよく言いますが、まちづくりや人づくりは日頃からのちょっとした積み重ねが、大きな実を結びます。養父市堀畑区の「黄色いハンカチ運動」は、地域の将来を憂いた人たちが、「今の課題をそのままにしておけば、将来、子どもたちがそれを背負うことになる。そうならないために一歩ずつ前へ進めよう」という思いで取り組んできたそうです。活動にかかる苦労も、未来への大切な糧になるのではないのでしょうか。(田中)